

フォトアルバム



9月 オープンカンファレンス 東京医療センター 藤波 芳先生と杏林アイセンター一同



10月 第64回東京多摩地区眼科集談会

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<第7回 城西武蔵野眼科講演会>

2022年3月2日(水) 19:00~21:00 (予定) 場所: 中野セントラルパークカンファレンス(予定)
会費: 1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)
特別講演: 「ERG 関連について(仮)」篠田 啓 先生(埼玉医科大学眼科 教授)

<第12回東京多摩眼科連携セミナー>

2022年5月28日(土) 14:30 ~ 17:00 場所: 杏林大学 大学院講堂(予定)
会費: 1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)
教育講演: 「循環器と眼疾患(仮)」副島 京子 先生(杏林大学医学部循環器内科学教室 教授)

<13th Eye Center Summit>

2022年6月4日(土) 17:30 ~ 20:00 (予定) 場所: 丸ビルホール & コンファレンススクエア 7F
会費: 2,000円(予定)(日本眼科学会認定専門医2単位)
講演 1「前眼部疾患について(仮)」谷戸 正樹 先生(島根大学医学部眼科学講座 教授)
講演 2「後眼部疾患について(仮)」柳 靖雄 先生(横浜市立大学大学院医学研究科視覚再生外科学教室 客員教授)

編集部からのコメント

COVID-19 禍が続く中で、アイセンターも病院の新型コロナ外来への協力や眼科緊急疾患にできるだけ対応してきました。こういう危機的環境が続く中で、若い人材が実力を伸ばすことの重要性を再認識しています。そのためには関連施設の充実と連携強化が必要です。今後は、医局員が出張してご指導いただいている施設も紹介していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。(AH)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 63
Fall
2021

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆立川病院の紹介(矢田 長洋)<1> ◆フォトアルバム<4>
 - ◆栗原眼科病院の紹介(山本 雅)<2> ◆イベント情報<4>
 - ◆けいゆう病院の紹介(福本 隆基)<2-3> ◆編集部からのコメント<4>
 - ◆アイセンター戦略企画会議について(岡田 アナベル あやめ)<3>
- <執筆者:括弧に明記 production:中山真紀子、津田麻祐子、草壁裕子、岡田アナベルあやめ>

立川病院の紹介(矢田 長洋)



矢田 長洋

2018 年杏林大学病院眼科学教室入局の矢田長洋と申します。2020 年 4 月より国家公務員共済組合連合会立川病院に出向しています。現在の眼科医は私含め 4 名で慶應義塾大学病院の関連病院であることもあり、杏林大学病院からの眼科出向としては私が初めての人事でしたが温かく迎えていただきました。

現在の仕事内容について簡単にご説明させていただきます。月・水・木曜日は主に外来業務で水曜日は初診の担当をしています。私の主な手術日は火曜日ですが水曜日の午後にも行っています。月に 2 回ほど当直日があります。外科のかかりつけの患者さんや病棟対応以外は基本的に眼科の救急外来の対応がメインとなります。

外来は緑内障、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫、加齢黄斑変性などの患者さんが多いですが、高度のぶどう膜炎や難治性の角膜疾患の患者さんもいます。common disease はもちろんですが、その他様々な疾患を経験することができ、日々良い刺激を受けています。

また 2017 年より当院は新病棟に改築されたため、最新の設備が揃っており治療の選択肢も増えております。近医からの紹介患者さんを含め全体の症例数も多いため、自身のスキルアップの場としては最適な環境と思います。

手術は現在白内障手術をメインに担当させていただいております。部長の適切な指導の下に段階的に技術を身に付けることができます。ある程度自分の裁量で手術件数を増やすこともできるので、十分な症例数を確保することができます。難症例も多いですが常に上級医に相談できる環境が整っておりますので、安心して手術に臨むことができます。

私の場合、金曜日は研究日あるいは外勤日に当てることができ、自己研鑽の時間も保たれています。日々の業務に忙殺されがちですが、無理なく知識のアップデートをする環境は考慮されています。

レジデントの経験を積む環境としては最適だと思いますので、今後出向を考えている先生方にはお勧めしたいと思います。

栗原眼科病院の紹介(山本 雅)

入局 4 年目の山本雅です。本稿では昨年 4 月から出向させていただいている栗原眼科病院について紹介させていただきます。

栗原眼科病院は埼玉県の北東部に位置する羽生市にあります。東北道を使えば都内から 1 時間半ほどの距離ですが、北にある利根川を渡ると群馬県、栃木県で、県を跨いで通院されている方も多い状態です。また、眼科単科の病院ではありますが、45 床もの病床があり、近隣に大学病院などが無いこともあって外傷や網膜剥離などの緊急疾患の紹介も含め症例のバリエーションも豊富です。常勤医師は院長以下 9 人で東京大学、獨協医科大学埼玉医療センターからも出向の先生がいらっしゃいます。同期の先生を見て他大学での研修ではここまで出来るのかと驚きがあるのと共に、とても刺激になっています。

日常診療は平日毎日の外来と週 2 日（火曜、木曜）の予定手術がルーチンワークで、学生実習の頃から電子カルテが当たり前として育ってきた身としては、慣れない紙カルテと毎日の外来に当初は悪戦苦闘していましたが、他の先生方やコメディカルのスタッフにも助けられ、現在は濃密な研修のできる毎日を過ごしています。

手術は病院全体で一日に 30 ～ 40 件程度で、現在そのうち 3 ～ 4 件（主に白内障手術及び外眼部手術）を担当しています。更に硝子体手術・緑内障手術・角膜移植手術についても関わらせていただきこれまで大学で学んできたことも含めて手術・術後管理に生かしております。また、月に 1 回程度麻酔科の先生の管理の下、全身麻酔での手術も行っています。

出向前から涙道疾患で有名な病院だと聞いていたものの、現在の COVID-19 感染拡大のため昨年の 4 月から DCR はほとんど経験できていないのが大変残念ですが、栗原院長、城下副院長から涙嚢造影、涙道内視鏡についても教えていただいています。

また、埼玉県眼科手術談話会にて演題発表の機会もいただきました。

今後帰局した際にはこれまでの経験を活かして更に研鑽を積みたいと考えていますのでどうぞよろしくお願いいたします。



左から城下 哲夫副院長、栗原 秀行院長、山本 雅

けいゆう病院の紹介(福本 隆基)

皆様、こんにちは。入局 3 年目の福本隆基と申します。私は、2020 年 7 月より横浜市みなとみらいにある「けいゆう病院」に出向しています。

けいゆう病院での私の 1 週間ですが、まず月・火曜は外来業務です。1 人で診察するのは 1 日平均 30～40 名くらい、疾患は緑内障、AMD、視神経疾患など多種多様で、特に、網膜硝子体センターを掲げているので他施設に比べて硝子体手術を要する患者さんは多いと思います。週に 2.3 件は緊急の網膜剥離がいるイメージです。外来の手技に関してですが、レーザーや注射は杏林にてほとんど習得していたため、あまり困る事はありませんでした。

水・木曜は手術日です。けいゆう病院の特徴として、網膜硝子体疾患が多い事を挙げましたが、羊膜バンクとして認定されている病院でもあります。涙道、眼瞼、斜視手術以外はほとんど経験可能です。私個人としては、この 1 年で白内障手術を 100 例ほど経験したので、これからは難症例の白内障、また硝子体手術や緑内障手術を学びたいと思っております。

毎週火曜日の朝に、その週の硝子体手術・緑内障手術は全例カンファレンスが行われます。ウェットラボも月 2 回あり、自分の手術で足りなかった部分の復習、またステップアップの準備もでき、毎回副部長の見守りの元、練習させて頂いています。

当直は月 1～2 回で、外科当直のため、眼科以外を診ないといけないこともあります（自分の判断で断ることもできますが）。元々警察病院のため、稀にあるのが、ドラッグ使用疑いの方の強制採尿をお願いされた事もあります。基本的には横浜市の緊急の眼科患者さんが来られます。



けいゆう病院の皆さんと一緒に、福本 隆基

以上、簡単なけいゆう病院の説明です。杏林からは初めての出向病院でしたので多少心配もありました。しかし、けいゆう病院眼科は慶應系列のため、杏林の先生と縁のある先生も多く、初めから暖かく迎え入れてもらえました。

日々勉強の毎日ですが、ここで学べることを全部吸収したいと思います。最後に、けいゆう病院に出向先にと尽力して頂いた先生方に感謝申し上げます。

アイセンター戦略企画会議について(岡田 アナベル あやめ)

2021 年 6 月 20 日、アイセンターの戦略企画会議が開催されました。

最近入局された方はご存じではないかもしれませんが、杏林アイセンターは、樋田哲夫先生と平形明人先生の「ビジョン」に基づいて非常に戦略的に考えられて作られた組織です。その結果、既にたくさんの成果を挙げてきており、大いに誇りに感じて良いことと思います。しかし、当初のアイセンターの夢は更に壮大なものであり、その点では我々はまだ道半ば、と言っているでしょう。

今回の会議は 8 年ぶりに行われて、10 年先（2031 年）のそれぞれ教育、研究および臨床分野の目標を議論することができました。目標の中には、例えばサブスペシャリティのフェローシップ制度の強化、人事部の設立、杏林アイセンター Research Institute の設立が提案されました。今後、医局の同門会員および地域の眼科医と連携しながら、アイセンターの発展に益々努力して参りたい所存です。

**お金を残す教授は三流
業績を残す教授は二流
人を残す教授は一流**

樋田哲夫先生